

芸州廿日市の城郭跡

廿日市・佐伯・吉和・大野・宮島の城郭跡

◇廿日市の城郭跡 (丸数字城址は、文政8年(1825)「藝藩通志」による七尾城)

①廿日市-岩戸尾城 iwadoo-jo

廿日市と広島市佐伯区の境にあった岩戸尾城は、後世の畑地利用のため段上に削平されており、城の遺構確認が困難である。

②廿日市-桜尾城 sakurao-jo

宮島・西国両街道に挟まれた標高31mの城山にあったが昭和42年頃から埋め立て用採取場となり、削平され、現在は桂公園となって市民の憩いの広場になっている。

③廿日市-篠尾城 sasao-jo

天満宮と正覚院がある天神山の峰続きにある標高29mの篠尾山にあった。北側の竹尾山には嶽尾城があった。

④廿日市-藤掛尾城 fujikakeo-jo

新宮神社の南標高38mの藤掛山にあり、道路計画と藤掛ハイツ造成の為に削平された。当時は尾根の最先端部は海に突き出した絶壁の要害であった。小方加賀所居。

(芸藩通志巻55)

⑤廿日市-越峠尾城 koito-jo

JR山陽本線峰高陸橋東南部に位置。本城は下平良と宮内を境とする標高44mの尾根上にあったが、昭和50年頃削平され、現藤掛ハイツとなった。

⑥廿日市-谷宗尾城 tanimuneo-jo

平良と宮内を境とする尾根上の標高71mの谷宗山にあったが西広島バイパスと配水タンク建設等により大部分の遺構が削平され旧状しれず。現上水道貯水タンクの位置。小幡上總所居。(芸藩通志巻55)

⑦廿日市-宗高尾城 munetaka-o-jo

標高93mの宗高山、現在の陽光台1丁目市立平良小学校北側の陽光台第1公園にあった。糸賀平左衛門所居。(芸藩通志巻55)

8.廿日市-嶽尾城 takeo-jo

JR廿日市駅東方の山陽本線と広電宮島線に挟まれた竹尾山にあった。毛利家臣遠藤美作所居。

(芸藩通志巻55)

9.廿日市-丹渡尾城 tando-jo

宗高尾城と同一丘陵にあった。

10.廿日市-星ヶ城 hoshiga-jo

白砂原二村の地にあり。土岐主膳所居。

11.廿日市-辻堂原城 tsujidobara-jo

折敷畑丘陵南西端に位置。

◇佐伯の城郭跡

12.佐伯玖島-檜原城 **narahara-jo**

檜原隠岐重政所居（芸藩通志巻 55）

13.佐伯永原-狼倉山城 **okaminokurayama-jo**

折敷畑の戦の後、毛利氏がこれを築き、進藤豊後(一つに豊前)を置いて守らせる。
(芸藩通志巻 55)

14.佐伯友田-溝迫城 **mizogasago-jo**

15.佐伯友田-高立城 **takadachi-jo**

陰徳太平記に、陶晴賢友田村高森という山城を築くと見え、この城と一なりや。
(芸藩通志巻 55)

16.佐伯友田-狼城 **okami-jo**

17.佐伯河津原-中山城 **nakayama-jo**

相良遠江所居。(芸藩通志巻 55)

18.佐伯津田-勝成山城 **katsunariyama-jo**

陶弾正勝成所居。(芸藩通志巻 55)

19.佐伯津田-下勝成山城 **shimokatsunariyama-jo**

20.佐伯津田-小原城 **kobara-jo**

俗に比丘尼城 **bikuni-jo** という。(芸藩通志巻 55)

◇吉和の城郭跡

21.吉和-半坂尾城 **hanzakao-jo**

三浦兵部所居。(芸藩通志巻 55)

22.吉和-花原城 **hanabara-jo**

安達興三左衛門所居。(芸藩通志巻 55)

23.吉和-平城 **hira-jo**

24.吉和-駄荷城 **dani-jo**

熊崎城共に河野蔵人所居。(芸藩通志巻 55)

25.吉和-熊崎城 **kumasaki-jo**

駄荷城共に河野蔵人所居。(芸藩通志巻 55)

◇大野の城郭跡

26.大野物見-河内城 **kochi-jo**

廿日市市の地御前から海岸沿いに縦走する低山の連なりの最西端を物見山という。
西の谷を「油が免」といい、北の麓に永慶寺川が海に注ぎ、城の要害となっている。

27.大野-門山城(山頂郭群) **kadoyama-jo-sanchokakugun**

城山は毛保川、妹背の滝付近より南西に走り、経小屋山麓に接す。海側は陰阻で
頂上の尾根には無数の巨岩が連なっている。大野弾正所居。(芸藩通志巻 55)

28.大野-門山城(東側郭群) **kadoyama-jo-higashigawakakugun**

◇宮島の城郭跡

29.宮島要害山-宮尾城 miyao-jo

有浦の北の尾を要害の鼻という。毛利氏天文廿四年五月此処に城を築き、陶氏との巖島合戦を謀(たぶらか)る。

30.宮島中西町-勝山城 katsuyama-jo

宝物館の裏山に建つ、大永三年(1523)癸未(みずのとひつじ)六月僧周歆建立の通称二重の塔(多宝塔)の脇に往時多宝塔の本寺である「多宝院」という寺があった。天文廿四年(1555)九月、巖島合戦の折、陶晴賢は大軍を率い巖島に渡り、この丘に陣を張った。

※「多宝院」参照文献「藝州巖島圖會」80頁

(参考:「広島県中世城館遺跡総合調査報告書」第1集 1993 広島県教育委員会より加工引用)